

令和6年度 第2回 大阪府立茨田高等学校学校運営協議会

令和6年11月7日(木) 15:30~

大阪府立茨田高等学校 会議室

協議委員

協議委員：川村幸治、早坂三郎、亀元政志、渡邊哲朗、綿世良一、村井沢子

学校：松井くみ子(校長)、紙本享介(教頭)、西岡宏二(事務長)、

西本敦史(首席)、野崎龍(首席)、木原義憲(指導教諭)

松田勲司(進路指導主事)、南花子(保健主事)、下村真也(生徒会主担)

大東央靖(第3学年主任)

記録：野崎龍

議題「茨田高等学校の最終年度について」

1. あいさつ・自己紹介

校長挨拶、亀元政志協議委員の紹介

2. 本年度の進捗状況と来年度の学校経営計画について(校長より)

- *茨田リビングの実施し、昼休みの開室も行う。
- *イベントデイの開催し、夏祭り、ハロウィンなどの行事も行う。
- *避難所体験を実施し、いい思い出にもなった。
- *文化祭(茨田フェスティバル)の開催について
- *のこり2か月を切り、全員卒業をめざす
- *50周年記念について
- *茨田高校の最後の目標は、卒業させること。
- *生徒は素直で授業を積極的に受ける姿が見受けられる。

3. 授業アンケート(紙本教頭)

- *「授業に興味関心をもつ」「授業を受けて知識技能が身についた」の項目の数値が下がったが、通常が高すぎであり、マイナスに動いたわけではない。
- *肯定率が90%を超えて高い。

4. いじめアンケート(西本首席)

- *聞き取り、見守り、情報共有について組織的に対応している。
- *本人が感じたらそうなるので注意している。

5. コミュニケーションアンケート（西本首席）

- * スマホマナーについての肯定回答は100%。日々の指導が行き届いている結果。
- * 「考えや気持ちを抑えず話すことができる」の項目が下がっている。気配りなどができなくなった、と捉えている。
- * 「聴く・理解する」の項目で取組みの効果が出ている。
- * 「自己肯定感」の多くの項目で上がっている。
- * 「自己決定」の項目が大幅に上昇している。
- * 「理解してくれる人がいる」の項目が上がっている。人間関係が構築できているようになったことが要因だと捉えている。
- * 「新しいことへの挑戦」の項目は学校行事を教員が仕掛けて、生徒が中心になってイベントを行っているため、上昇している。
- * 全体的に自己肯定感の指標が上がり、コミュニケーションの取り組みが役立っている。

6. 進路状況報告（松田進路指導主事）

- * 進学：大学は指定校で受験している。
- * 就職：1次合格率71.4%

求人票2400件（11月現在）昨年よりも非常に多く売り手市場

7. 協議

議長：川村幸治氏

議長

- * 学校はよくがんばっているので意見しにくい。協議委員から意見や感想を求める。

協議委員

- * 授業アンケートが高いとうれしいが、さらに上を目指すための糧にならない。
- * 数字の評価を気にしすぎないこと。
- * 茨田高校が50年続いたのは時代にあったことをおこなっているため。
- * 茨田の卒業生も頑張っている。
- * 全員卒業して、社会に役立ってほしい。

協議委員

- * 店舗経営時に茨田生徒と対話していた。
- * 茨田中学からラグビーの生徒が入学していた。
- * 地域では以前は茨田高校に対し、怖いという意見もあったが、今はさみしいという声も聞かれる。

*地域のイベントにもかかわっており、学校の中が変わってきた。

協議委員

*コミュニケーションアンケートは生徒の自我が出てきた証明。

*中学で学ぶことができなかってことが、高校で学んでいる。

協議委員

*生徒の話を見ると、みんな頑張っている。生徒自身がネガティブにとらえる必要はない。

議長

*少しずつ学校が変わってきた。

*コミュニケーションアンケートを見れば、学校の変容が見て取れる。

協議委員

*コミュニケーション能力を活かして、みんなの役に立つ人に育ててほしい。

*コミュニケーション総合の授業を作ったとき（10年以上以前）、教員の姿勢に疑問を感じたことがあったが、現在はそのようなことは感じない。

*自己効力感の数値が低いのは、設問の仕方が少なからず要因だと考えられる。

*今年のコミュニケーション総合の授業は反応があり、とても良い。

*もう一花頑張ってほしい。

議長

*50周年の協議は難しい。

*社会でがんばれる。社会で役立つ生徒を育ててほしい。

8. 謝辞（校長より）

*中学で不登校だった生徒が多いが、高校でもまれてきた。

*生徒の自我が出てきた。

*最後はいい卒業式にしたい。

次回 第3回学校運営協議会 1月30日（木） 15:30～